

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	12330
政策名(章)	第2章 生涯にわたる健康づくりを進めます	評価担当部	保健福祉部
基本施策名(節名)	第3節 市民医療の充実	評価担当課	地域医療課
施策名	災害時医療の充実	課長名	近藤 敏男

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

相模原市地域防災計画に基づき、災害の程度に即した医療救護活動の円滑な対応を図るため、救護所スタッフの確保、医薬品等の備蓄・供給体制の整備、後方医療機関の指定等を行うことにより、市民の安全を守ることを目的とする。
大規模地震等の災害に備えて、医療救護班・救護所の体制整備を行うほか、救護所等への備蓄薬品の整備、更新等を実施している。
平成16年7月に従来の医療救護マニュアルを改訂し、平成17年度から救護所に指定している小学校で救護所訓練を実施している。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		9,794	
人件費		4,025	
市民一人あたりの事業費	24	21	
合計	14,523	13,819	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

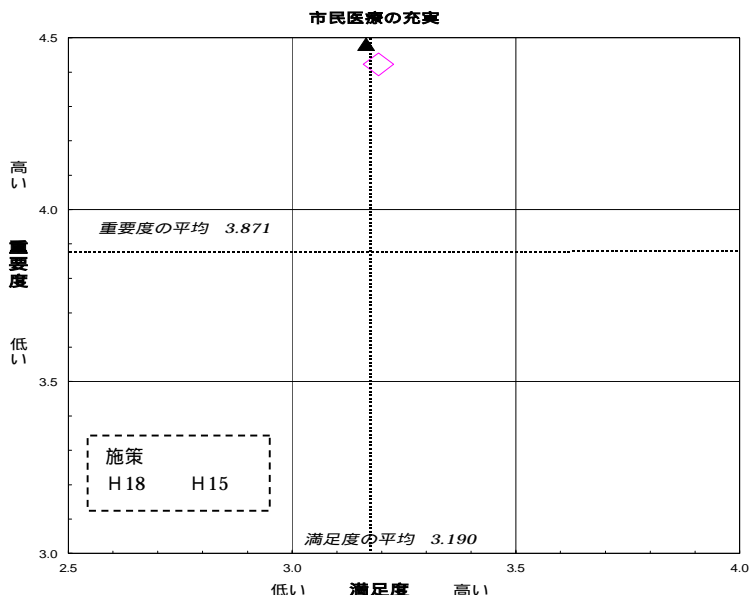
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	拠点救護所医薬品(相模原メディカルセンター及び相模原南メディカルセンター)の配置率	拠点救護所医薬品配置済箇所 / 拠点救護所医薬品配置予定箇所 × 100	100% (2箇所)	11年度以前
指標2	救護所医薬品(旧相模原市内24箇所)の配置率	救護所医薬品配置済箇所 / 救護所医薬品配置予定箇所 × 100	50% (12箇所)	12
指標3	救護所資機材の配置率(簡易ベット・アルミ担架)	救護所資機材配置済箇所 / 救護所資機材配置予定箇所 × 100	25% (6箇所)	13
指標4	救護所訓練実施率	訓練実施校数 / 訓練計画校数 × 100	16.7% (4箇所)	17
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	2 / 2	19	100%	21	100%	拠点救護所への医薬品の配置率を目標とする。既に配置済で医薬品の品質期限にあわせ計画的に更新する。 救護所への医薬品の配置率を目標とする。既に配置済で医薬品の品質期限にあわせ計画的に更新する。 救護所用資機材の配置率を目標とする。災害時医療救護マニュアルに基づき計画的に配置する。 救護所の救護訓練の実施率を目標とする。実施計画に基づき、平成17年度から計画的に訓練を実施する。
達成率	100%					
指標2	24 / 24	19	100%	21	100%	
達成率	100%					
指標3	18 / 18	19	100%	21	100%	
達成率	100%					
指標4	4 / 4	19	50%	21	83.3% なお、平成22年度は100%の予定。	
達成率	100%					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.193で51施策の中で24番目。
 重要度は4.422で1番目である。
 改善要望度は0.3875で3番目である。
 年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、20、40歳代で低くなっている。
 重要度は30歳代でもっとも高い。また、全ての年代で上位10施策に入っている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に上がり、50歳代で下がっている。
 重要度の順位では、大きな違いはみられない。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2 1	災害時における市民の生命を守るためには欠かせない事業である。医薬品や資機材の配置、救護所訓練などを計画どおり実施している。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 1	・救護所に必要な医薬品や資機材等は災害時医療救護マニュアルに基づき計画的に配置している。 ・救護所の訓練については、医師会等関係団体のスタッフが休日にボランティアで参加して熱心な訓練を実施している。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	2 1	・満足度及び重要度ともに平均を上回っており、特に重要度は高い位置にある。	
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 A

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	救護所の医薬品や資機材の計画的な整備を進めるとともに、今後は災害時医療救護マニュアルに基づき救護本部の体制整備などを進める必要がある。また、合併に伴う津久井地域の医療救護体制を整備する必要がある。
解決策	津久井地域については、平成21年度に見直される市地域防災計画の動向を見据え、医療救護体制を構築していく。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

指標の設定は、よく検討がされているが市民に直接関係する施策だけに、市民の意識を測るような指標の設定が必要である。また、有効性の評価は甘いと考えられる。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

